

1. これまでの経緯

平成 17 年度（2005 年度）「魅力ある教育実践推進」大津市教育委員会研究指定 2 年次

研究テーマ	「魅力ある授業づくりのために－生徒を、学校を変える、活力あふれる授業への実践－」
ねらい、概要等	授業改善についての講話（佐藤雅彰先生）から学ぶ。 授業の工夫や開発（形態・教材・教具・発問・実験など）の実践。 教師全員が授業公開を行う。
研究視察	池田市立細河中学校へ（H17.10 月）

※3 学期のみ 1, 2 年生で「コの字」型の座席を取り入れる。

平成 18 年度（2006 年度）

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－学び合いのある教室づくり－」
ねらい、概要等	「作業」「小グループ学習」「表現の共有」を織り込んだ授業活性化。 教師全員が授業公開を行う。（ビデオ撮影による授業研究）
研究視察	小牧市立応時中学校へ（H19.2 月）

※年間を通じて 1 年生で「コの字」型の座席を取り入れる。

平成 19 年度（2007 年度）

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	授業のねらいに応じて座席や学習形態を工夫。 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開を行う。（ビデオ撮影による授業研究） 生徒の様子に目を向ける授業研究の実施。
研究視察	小牧市立応時中学校へ（H19.6 月, 10 月, H20.2 月）

※年間を通じて 1, 2 年生で「コの字」型の座席を取り入れる。

平成 20 年度（2008 年度）

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	毎学期毎に 1 回の校内研究会で公開授業、授業研究、実践交流 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開「一人 1 授業」 「ヒット授業案集」の作成と実践発表。
研究視察	小牧市立応時中学校へ（H20.6 月, 11 月,）

※年間を通じて 1, 2, 3 年生で「コの字」型の座席を取り入れる。

平成 21 年度（2009 年度）

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	毎学期毎に 1 回の校内研究会で公開授業、授業研究、実践交流 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開「一人 1 授業」 「ヒット授業案集」の作成と実践発表。
研究視察	彦根西高・茨木市立豊川中（21.6 月）小牧市立応時中学校（H21.11 月）

平成 22 年度（2010 年度）

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	毎学期毎に 1 回の校内研究会で公開授業、授業研究、実践交流 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開「一人 1 授業」 「ヒット授業案集」の作成と実践発表。
研究視察	彦根西高（6 月）・授業づくり・学校づくりセミナー（8 月） ・小牧市立応時中 & 北里中（11 月）

平成 23 年度 (2011 年度)

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	毎学期毎に1回の校内研究会で公開授業、授業研究、実践交流 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開「授業のデザイン」「一人1授業」 「ヒット授業案集」の作成と実践発表。
研究視察	・小牧市立応時中（11月）など

平成 24 年度 (2012 年度)

研究テーマ	「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」
ねらい、概要等	毎学期毎に1回の校内研究会で公開授業、授業研究、実践交流 教師の役割を「教える」から「聴く、つなぐ、もどす」へ。 教師全員が授業公開「授業のデザイン」「一人1授業」 「ヒット授業案集」の作成と実践発表。
研究視察 学習会	・授業づくり・学校作りセミナー（8月・1月） ・小牧市立応時中（11月） ・大津学びの会 など

2. 昨年度末のまとめと本年度への申し送り事項

(1) 平成 24 年度の成果

【生徒】	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動に慣れてきて自然に話し合いができる雰囲気が高まった。 ・お互いの意見を大切にしたり，他人の意見から学んだりする習慣が付いた。 ・グループ活動などの「学び合い」の学習に，意欲的に取り組んでいる。
【教師】	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究のねらいを踏まえて，研究活動に積極的に取り組んでいる。 ・学び合いによって生徒の意欲が高まったり，個々の生徒が主体的に授業に参加したりできる効果を認識できた。 ・教科や学年を越えて教師同士が学び合う雰囲気が高まった。生徒理解にも役立っている。

(2) 平成 24 年度の課題

- ・まだまだ講義形式や教師主体の授業になっている場合がある。
- ・1時間の中での「学び合い」の生かし方や，課題の設定のしかたに工夫が要る。
- ・どのように「聴く，つなぐ，もどす」なのか，効果的な教師の動きが未確定。
- ・「コの字」や「4人グループ」での学習が大事なのではなく、「どの子にも学びを保障していく」ことがこの研究の本質なので，形だけではなく「質的に」高めていかなければならない。
- ・人権意識の向上や低学力の克服といった課題が解決出来ていない。
- ・研究協議会の活性化が課題。

(3) 平成 25 年度の方向性，構想

【研究テーマ】

「魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－」・・・継続

【ねらい】

- ・生徒一人一人が，より主体的に授業に参加できる場面を増やす。
- ・生徒の活動の様子に目を向ける。教師間の交流を通して生徒理解を進める。
- ・“学び合い”の軸を守りつつ、学力や人権意識の向上などに繋げていく方策をさぐる。

【研究の進め方】

- ・全員で1つの授業を見る授業研究を継続。教師の授業方法に目を向けるのではなく，生徒の活動の様子を観察して交流する。
- ・学年会で，お互いの授業交流・実践交流を進めて，教師間の学び合いを進める。
- ・定期的な教科部会の設定
- ・複数の先進校への視察。他校に学ぶとともに，栗津中のよさ・改善点を知る。

(一人1回は行く。現在、視察校 hp で検討中)

【授業の工夫】

- ・ 教師の役割：言葉を減らす。「聴く，つなぐ，もどす」を磨く。
- ・ 「学び合い」の学習を有効活用する具体的な方法をさぐる。

【具体的な取り組み(案)】

- ・ 4月に新転任者を中心に、研究テーマについての説明会を実施する。
- ・ 生徒向けの統一した説明・オリエンテーション
- ・ 各教室に「学び合い」に関する掲示物
- ・ 年間を通して職員授業参観週間(月間)の実施をする。
- ・ 研究会の「実践交流」では、“学び合い”の展開についての事例を発表し合う。
- ・ 学年部会でも「学び合いの授業」についての議題を取り上げ話し合う
- ・ 教科部会で、各自の教材の交流
- ・ 先進校などの公開授業に参加
- ・ 推進委員会より通信で発信していく

「学びの共同体」研究会HP <http://www.justmystage.com/home/manabi/>

* 現在、視察校 hp で検討中

3. 学校教育目標より

■ 粟津中学校校訓…自主・自律・自由

■ 教育目標 「心豊かでたくましい生徒の育成」 知・徳・体の調和

知… 学びとる	確かな学力と学ぼうとする意欲を持った生徒 学び合う集団を大切にする生徒
徳… 思いやる	豊かな心を持った生徒 社会のために自ら実践する生徒 「いのち」や「もの」を大切にする生徒
体… やり抜く	健康でたくましさを持った生徒 「やれば出来る」を合言葉に切磋琢磨する生徒

◎教育実践の重点◎

※創意ある教育課程の編成と実施

教育の質的向上… **わかる・できる授業をめざして**グループ学習を取り入れるなど
指導方法の改善と指導体制の工夫

授業時数の確保と家庭学習の定着
学習規律の徹底…学習権の保障と授業の受け方のルールづくり
朝読書の実践による学力向上と落ち着いた雰囲気づくり
体験的な学習の充実により、意欲や自信を育てる
主体的に進路を選択する能力や態度の育成
将来を見据えた進路指導（的確な進路情報の収集）
国際理解教育，情報教育，環境教育など今日的課題に取り組む

めざす生徒像

○ **学ぼうとする意欲を持つ生徒**

○ **学び合う集団を大切にする生徒**

生徒が本当に「わかった，できた！」と実感できる授業づくり

生徒同士が教え合い，学び合える授業づくり

教材・教具や学習形態の工夫

教師の役割を見直す
「聴く」「つなぐ」「もどす」

4. 平成25年度の研究方針

(1) 研究テーマ

魅力ある教育実践への挑戦－“学び合い”から理解を深める教室づくり－

(2) 研究テーマ設定の理由

「学校の授業」という言葉を聞くと、教師が黒板の前に立ち、座っている生徒に対して、教科書の内容を教える姿を想起する。このような授業スタイルは、多くの生徒に知識や技能を一律に伝達する場合に適しており、1学級に30～40人の生徒が在籍する日本においては、もっとも基本的で一般的な型といえる。

ところが一斉授業では、多くの生徒はいわゆる「お客さん」になりがちであり、教師の話を受動的に聞くだけになってしまう危険性をはらんでいる。また、生徒が静かに座っていれば、私たち教師は何となく自分の話が浸透したような手応えを感じて、満足してしまうこともある。

もっと生徒が主体的に取り組み、学習する楽しさや喜びを実感できるような授業、そして学習内容がしっかりと定着するような授業をめざしたいと考える。

目指す教室の姿 → 全員の学び・質の高まり・つながる喜び

(3) なぜ「学び合い」の授業なのか

本校では、「4人グループ」や「コの字」型の座席を積極的に取り入れて、「学び合い」のある授業づくりを図ろうとしている。なぜ「学び合い」の授業が必要なのか。その理由は主に以下の5点である。

①生徒1人あたりの発言が増える。(主体的な授業参加)

教師の話をもっと聞いているのではなく、グループ単位あるいは学級全体での話し合いをしながら進める授業であるため、生徒が発言する回数が増える。より主体的、積極的に授業に参加する姿が期待できる。

②考える習慣が付く。(思考力)

何もかも教師から説明を受けるのではなく、設問や課題に対して自分たちで答えを導き出そうとする活動が増える。そのため「覚える力」よりも「考える力」が鍛えられる。「覚えた知識」は条件や場面が変わると対応しにくい、「考える力」は応用が利く。

③論理的に説明しようとする力が付く。(表現力)

友達に意見を述べて相手を納得させるためには、何をどのように説明すれば相手に伝わるか、論理的な話し方をする必要はある。自分は論理的に説明できない場合でも、友達の話し方を参考にして、自分の話し方を見直すことができる。

④多面的に理解できる。(知識の深化・補強)

お互いに自分の意見を述べ合ったり、教え合ったりする中で、生徒は別の見方に気付いたり、自分の認識を他の角度から確かめたりできる。お互いの意見を聞いて、驚いたり、納得したりしながら、理解を深めていくことは、友達同士、あるいは学級全員の力で、いわば知識を構成していく活動といえる。

⑤他者理解が深まる。(コミュニケーション力)

他の友達の意見を聞いて、自分以外の立場や考え方があることに気付き、他者理解が深まる。ひいては他の人の考えを尊重できるようになり、コミュニケーション力が高まる

(4) 研究の重点

①教師の役割の見直し（生徒に考えさせる、気付かせるために）

「教える」→「聴く」…生徒の発言を待つ、しっかり聴き取る、意図を捉えながら聴く。

「つなぐ」…生徒の考えを生徒につなぐ、教材につなぐ、つなぐことによって考えさせる習慣を付ける。

「もどす」…新たな問題や疑問を学級全体に戻す、もどすことによって知識を探究する面白さを実感させる。

※「学び合い」を中心に授業を組み立てると、時間を要する。授業の中のどの場面で、何を考えさせるのかを明確にする。

②授業の工夫

- ・教師の言葉を減らす。声のトーンを抑え、授業のテンションを落とす。
- ・教室を活性化させる課題の設定
→基礎の課題とジャンプの課題
- ・実物を持ち込む
- ・適切な作業を取り入れる
- ・視聴覚機器（テレビ）等の活用

授業のユニバーサルデザイン

＜誰にもわかりやすく、安心して参加できる教育環境を作る＞
環境の工夫 ルールの明確化
視覚的な支援
発問や説明の工夫
認め合う場の設定

特別支援教育の視点を全ての生徒の指導に生かす

(5) 研究推進の方法

①全体研究会 学期3回+夏休み1回

1学期 6 / 13 3年担当 5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
2年担当 ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）

2学期 10 / 31 2年担当 5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
1年担当 ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）

3学期 1 / 15 1年担当 5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
3年担当 ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）

※全員で1つの授業を参観することを原則にする。

※教師の授業方法よりも生徒の活動の様子に目を向けて、生徒理解に努める。

※指導案は略案程度（A4、1枚）のものを準備する。書式は研究推進部で準備。

（「授業のデザイン」「ヒット授業案」）

■公開研究授業の担当について

【参考】近年の研究授業実績

	1学期	2学期	3学期
H17年度	—	—	国語：金澤
H18年度	数学：大浦，中村	英語：渡辺	数学：津田
H19年度	国語：金澤 社会：武田 保体：市田，朝比奈 家庭：菊谷	社会：西田賢	保体：土屋， 朝比奈
H20年度	美術：人見	理科：小幡	英語：中川
H21年度	数学：西田・東	社会：武田	音楽：島田
H22年度	家庭：中嶌	社会：吉森	社会：西本
H23年度	理科：鷺	音楽：中村	数学：中村
H24年度	英語：三浦	英語：窪田・田村	理科：小幡

②保護者の授業参観

- ・「学び合い」の研究内容で授業を行う

③職員研修

- ・各種研究会，研究大会への積極的な参加→案内文書を回覧します。
- ・先進校：応時中等などへの研究視察

④授業を撮影したビデオの視聴

(6) 年間計画 授業公開月間 (年度初めを中心に)

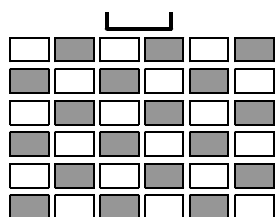
月	活 動 内 容
4	研究推進委員会 (年間計画の立案) 職員会議 (研究主題とねらいの確認)
5	研究推進委員会 (研究内容を検討)
6	研究推進委員会 (研究内容を検討) 6/13 第1回全体研究会を開催 (講師・倉知雪春先生を招いて) 研究先進校視察
7	研究推進委員会 (研究内容を検討) 1学期の反省と課題
8	8/27 第2回全体研究会を開催
9	研究推進委員会 実践授業の公開
10	研究推進委員会 10/31 第3回全体研究会を開催 (講師・倉知雪春先生を招いて)
11	研究推進委員会 研究先進校視察
12	研究推進委員会 (2学期の反省と課題・3学期の計画)
1	研究推進委員会 1/15 第4回全体研究会を開催 (講師・倉知雪春先生を招いて)
2	研究推進委員会 (研究のまとめ)
3	研究推進委員会 (1年間の反省と次年度への課題)

1. 「学び合い学習」を研究テーマに掲げて9年目、実践を具現化して8年目。その歩みを大切に。
2. たとえ小さな歩みでも、みんなで同じ方向に進めれば、必ず前に進みます。
3. 「学び」の中での生徒の姿や発言 (つぶやき) が、前向きに語られる職員集団でありたい。
4. 「学び合い学習」は、教師間の「学び合い」。
5. 教師は「授業」で勝負しましょう！

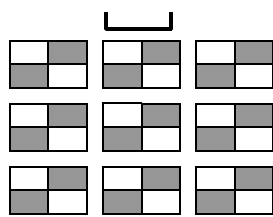
5. 座席の形態について

授業のねらいによって、下のような3つの型を使い分ける。

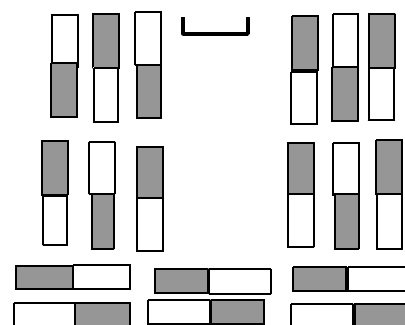
A 一斉前向き



B 4人グループ



C コの字



<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板を写しやすい。 ○ 周囲の生徒の様子が見にくい。 ○ 自分の作業や思考に集中しやすい。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気負わず気軽に話し合える。 ○ 生徒の発言回数が増える。 ○ 生徒同士お互いの意見を聞ける。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間の顔が見えやすく、言葉を交わしやすい。 ○ 意見を交わす雰囲気生まれる。 ○ 周囲の生徒の様子が見えやすい。 ○ 机間指導がしやすい。
<p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周囲の生徒の様子が見にくい。 ● 雰囲気が堅くなる。 ● 生徒の発言回数が減る。 	<p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話し合いの活性化はグループの人間関係に左右される。 ● 私語・雑談が多くなる。 ● 隣の生徒の様子が見えてしまう。 	<p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 席によっては黒板が見にくい。 ● 私語・雑談が多くなる。 ● 隣の生徒の様子が見えてしまう。 ● 机間指導がしにくい。

■ 「コの字」型の座席を取り入れる4つの理由

- ① 「学び合い」のある授業は、一斉前向きでは実現しにくいから。
- ② 教師の役割を「教える」から「つなぐ」、「コーディネート」に転換することを試みるため。
- ③ 普段から「コの字」型を基本として、生徒・教師ともに話し合いの活動に慣れるため。
- ④ 全クラスで最初から取り組むことによって効果が大きいから。一部教科だけが取り組むものではない。

■ 確認事項

- ① 座席の形態そのものに「良い」「悪い」はない。それぞれにメリット・デメリットがある。
- ② 授業の意図や学習活動にぴったり合えば、その授業にとって「良い」形態といえる。
- ③ 「コの字」や「グループ学習」を取り入れて、どのような学習活動を展開するのか、教師が授業の意図を明確に持つことが大切。
- ④ 「コの字」あるいは「グループ学習」をしていればそれがよい授業ではない。
- ⑤ 授業の内容によっては、「コの字」あるいは「グループ学習」は大きな妨げになる。
- ⑥ 授業によっては「コの字」に固執せず、座席の形態を使い分ける。
- ⑦ もちろん授業1時間の中でも、座席の形態を使い分けてもよい。
- ⑧ 折に触れて生徒、保護者に説明していく。(入学式、学年集会、各種通信、家庭訪問など)